

『令和元年度 未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム ～多様な協働をとおして～』を開催しました（2019/11/20）

テーマ：防災教育、生涯学習、学校安全、地域安全、防災教育国際協働センター
場所：岩沼市民会館

2019年11月20日、宮城県教育委員会、東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センターの主催、国土交通省東北地方整備局、岩沼市教育委員会の共催により、岩沼市民会館にて「令和元年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム ～多様な協働をとおして～」が開催されました。フォーラムには、学校安全・地域安全に関わる教育関係者、研究者、実践者等、日本全国から535名が参加しました。本フォーラムは、2015年度に開催されたプレフォーラムを含めると、今回が5回目の開催となり、学校と地域の安全分野における期待が高まりつつあります。その期待と要求の高まりに対応するために、これまで「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」と称して宮城県教育庁スポーツ健康課が中心となり企画運営してきたフォーラムと、「地域防災フォーラムinみやぎ」と称して宮城県教育庁生涯学習課が企画運営してきたフォーラムを合同で企画運営することを昨年度からはじめ、今年度もその方針を継続しました。

本フォーラムでは、宮城県農業高等学校 和太鼓部による演奏の後、宮城県教育委員会の伊東昭代 教育長(代読)、岩沼市教育委員会の百井崇 教育長からの挨拶が行われました。その後、当研究所の今村文彦 所長から「東日本大震災の風化を防ぐ防災意識の再強化」と題する特別講演が行われました。続いて、学校安全に係る情報提供のセッションでは、国土交通省東北地方整備局、仙台管区气象台、国土地理院、そして当研究所から、学校安全の充実に向けた主に教育支援の側面からの情報提供が行われました。特に、当研究所からの情報提供としては、共同研究プロジェクトとして取り組んでいる次の2件が紹介されました。

- 学校区の災害リスク理解のための地図を活用した教員研修・評価モデルの開発
研究代表者：桜井 愛子（東洋英和女学院大学 国際社会学部）
- 避難訓練の持続可能な評価・改善に向けた学校・行政・研究者による協働モデル構築
研究代表者：林田 由那（早稲田大学）

午後のセッションでは、「多様な協働による学校安全に係る実践事例発表」として、生活安全、交通安全、災害安全の3領域において、全国的な先進事例の発表が行われました。その後の「パネルディスカッション～持続可能な協働の在り方～」では、宮城教育大学の野澤令照 特任教授がファシリテーターとなり、先進事例の発表者を含むパネリスト7名とのディスカッションにより理解を深めることができました。最後に、当研究所の佐藤健 教授（情報管理・社会連携部門）により、本フォーラムの意義とその成果についての講評、閉会の挨拶が行われました。



会場の様子



パネルディスカッションの様子